補綴と矯正

高井基普

任　剛一　本多正明　米澤大地　大森有樹
長尾龍典　田中一茂　西井　康　村松裕之
野寺義典　古賀正忠　須田直人　山口徹太郎

医歯薬出版株式会社

Chapter 1
補綴と矯正の境界線

米澤大地
Daichi Yonezawa
兵庫県・米澤歯科醫院

大森有樹
Yuki Omori
大阪府・大森歯科医院

任　剛一
Gouichi Nin
東京都・オーラルデザイン
下北沢・矯正歯科

髙井基普
Motohiro Takai
東京都・プレミアムデンタルケア
恵比寿・代官山

コラム
長尾龍典　Tatsunori Nagao
田中一茂　Kazushige Tanaka

2016 年に行った 1 回目の座談会「補綴と矯正の境界線」では，一般歯科治療から矯正・歯周外科・インプラント治療などを網羅的に高いレベルで実践されている，米澤大地先生と大森有樹先生をお招きしてお話をうかがっています.

あえて最初は問題提起として，複雑な症例の「術後管理の臨床的指標」から始めました．それは，包括歯科の成功基準が「術後の安定」にほかならないからです．次いで，『補綴と矯正』のそれぞれの特殊性を，臨床を交えながら比較･整理していきます.

この座談会ではっきりとしたことは，『補綴』と『矯正』は手法は違えどその臨床的指標（治療咬合の確立）は同一であり，ともに『咬合治療』の一環であるということでした．そして，補綴学と矯正学という治療技法を中心として発展してきたそれぞれの学問は，相互理解することで新たな学問に革新するであろうという可能性を強く感じることができると思います.

（髙井）

はじめに

髙井　この座談会では，矯正専門医として任　剛一先生，さらにGPとして補綴・矯正を高いレベルで実践されている米澤大地先生と大森有樹先生にご登場いただきます．先生方とのディスカッションのなかで，歯科臨床における補綴治療と矯正治療の役割を明確にし，さらに今後の30年を見据えたわれわれが歩むべき歯科臨床の将来性についても論議できたらと考えています．

それでは先生方よろしくお願いいたします．

米澤　よろしくお願いします．

現在の歯科界はカリオロジーが浸透し，ノンカリエスの患者が増えたため，失活歯も減り，補綴されて咬合崩壊しているケースは減ってきます．しかし歯周病の，感染，咬合性外傷，顎の劣・過成長による歯列不正は残ります．それも踏まえ，歯周治療，咬合治療，矯正治療を連携させることは今後30年の歯科にとって必要で，たとえ敷居が高く難しいことでも，それをディスカッションする意義は大きいと思います．有意義なディスカッションになると期待しています．

術後管理の臨床的指標とは

髙井　そもそも補綴治療とは，歯質や歯の欠損を人工装置で補い，顎口腔機能を回復・維持・増進する処置です．その補綴治療の良好な術後経過とは，その補綴装置が壊れることなく安定し機能しつづけることにあります．では，補綴装置が壊れることなく長期間安定させるための要件から整理してみたいと思います．

大森先生は，補綴治療を成功させるためにどのようなことに留意されていますか．

大森　補綴治療の目的は，機能の回復・審美性の改善・残存組織の保全があげられますが，具体的に補綴治療を成功させるための臨床的基準として**表1**の項目を達成するようにしています．具体的なものとして，**Case 1**を提示します．

髙井　ありがとうございます．大森先生にご提示いただきましたように，崩壊した歯と

表1　補綴治療を成功させるための臨床的基準

- クラウン・マージンの精密な適合
- 生理的なクラウンカントゥア
- 咬合面，隣接面の接触点回復
- 構造力学的な安定
- 適切な鼓形空隙
- 審美性の回復
- X線写真上での治癒の確認

（山﨑長郎，本多正明．臨床歯周補綴Ⅱ．第一歯科出版より改変）

Chapter 2
補綴と矯正の融合

西井　康
Yasushi Nishii
東京歯科大学歯科矯正学講座

村松裕之
Hiroyuki Muramatsu
東京都・市川矯正歯科医院

野寺義典
Yoshinori Nodera
東京都・銀座アベニュー
矯正歯科

任　剛一
Gouichi Nin
東京都・オーラルデザイン
下北沢・矯正歯科

髙井基普
Motohiro Takai
東京都・プレミアムデンタルケア
恵比寿・代官山

2018 年に行った 2 回目の座談会「補綴と矯正の融合」では，矯正専門医である西井　康先生・村松裕之先生・野寺義典先生をお招きしました．そのなかでとても印象に残ったエピソードは，臨床における一患者の一現象を，全く違う角度で診ているという現実でした．それは決して不和や相違ということではなく，自分の臨床に新たなる診断の深みを与えてくれるものばかりでした．そういった意味からも，これからは補綴家が矯正学を学ぶことの大切さ，そして矯正の先生方に補綴学をお伝えすることの意義を強く認識することができる内容だといえるでしょう．（髙井）

Chapter 3
補綴と矯正の転遷

本多正明
Masaaki Honda
大阪府・本多歯科医院

古賀正忠
Masatada Koga
東京都・古賀矯正歯科クリニック

任　剛一
Gouichi Nin
東京都・オーラルデザイン
下北沢・矯正歯科

髙井基普
Motohiro Takai
東京都・プレミアムデンタル
ケア恵比寿・代官山

2020 年に行った 3 回目の座談会「補綴と矯正の転遷」では，矯正専門医である古賀正忠先生，そしてプロローグでもご登壇いただいた本多正明先生をお招きしました．筆者が，「このシリーズを書籍化したい」と強く思うきっかけとなった回になります．とてつもなく興味深く，貴重で，重要なエピソードが満載です．

お二人の先生とも，なかなか目にすることのできない貴重な写真を惜しげもなく掲載していただけており，歯科医師であれば知っておきたい，いわゆるレジェンドの顔ぶれは圧巻の一言です．添えられている素晴らしい包括歯科症例の数々も必見です．

そして，この座談会で大変印象的であったのは，今までにない高揚感でした．お招きしたお二人が偶然にも同い歳で，分野は違えど各々の領域で長年ご活躍されてきたことを互いに尊重し合い，終始笑顔で，いつまでも話が止まらないのです．お二人の先生方が本当に嬉しそうに最後まで固く握手をし，座談を終えたときの嬉しさは，筆舌に尽くし難いものでした．

（髙井）

Chapter 4
補綴と矯正の趨勢

西井　康
Yasushi Nishii
東京歯科大学歯科
矯正学講座

須田直人
Naoto Suda
明海大学歯学部
歯科矯正学分野

山口徹太郎
Tetsutaro Yamaguchi
神奈川歯科大学歯学部
歯科矯正学講座歯科矯正学分野

任　剛一
Gouichi Nin
東京都・オーラルデザイン
下北沢・矯正歯科

髙井基普
Motohiro Takai
東京都・プレミアムデンタル
ケア恵比寿・代官山

2021年，いよいよ最後の4回目座談会「補綴と矯正の趨勢」となります．ちょうどこの時期に新型コロナ感染症拡大が始まってしまいました．数カ月ごとに迫りくる感染拡大の波に社会が翻弄されるなかで，最後まで対面収録を試みましたが，結果的にオンラインとなってしまいました．打ち合わせも兼ねて，何度もオンライン会議を繰り返したことも印象的です．

この会の企画は，2018年2回目座談会「補綴と矯正の融合」でご登壇いただきました西井　康教授にかなりご相談させていただきました．2020年3回目座談会「補綴と矯正の転遷」においてもお写真のなかでご登場され，矯正界における存在感の大きさを感じます．

そして，このテーマに沿うということでご推薦・ご登壇いただいたのが，須田直人教授と山口徹太郎教授になります．やはり，臨床・研究・教育を同時にこなし，日本のアカデミアを背負う大学教授ということもあり，総合司会は西井　康教授にお願いいたしました．想像をえる多角的な視点を備えた教授陣の座談は，大変迫力のあるものでした．

そして，この6年にわたる冒険ADVENTUREは終わりを迎えます．同時に，「自分達の臨床はここからが新たな始まりとなる」と感じることもでき，非常に意義深いシリーズであることを再認識しました．（髙井）